資料

【資料一】　小泉吉宏『ブタのいどころ』

【資料二】　齊藤孝『本当の「頭のよさ」ってなんだろう？　勉強と人生に役立つ、一生使えるものの考え方』

現実社会のなかで、どう適応していくか

一方、学校の勉強がきらいで成績もよくなかったけれど、大人になってから社会で大活躍したり、大成功したりしている人も、世の中にはたくさんいます。

大人になっていきなり才能が開花したのでしょうか。

いいえ、おそらくそういう人は、子ども時代から、テストの点数とか学校の成績とかでは測れない種類の頭のよさをもっていたんです。

新しいものを生み出す発想力とか、人を喜ばせたりやる気にさせたりするすぐれたコミュニケーション力とか、そういうものは学校のテストではわかりません。

こういう人たちの発揮する頭のよさというのは、言ってみれば「社会のなかで、いかによく生きるか」というものなんです。

勉強ができる、成績がいいということは、ある一面ではたしかに「頭がいい」のです。だけど、きみたちが思っているほど絶対的なものじゃないんです。

学校を出てからの人生で求められる頭のよさとは、「社会的適応性」の高さです。

いまは寿命が延びていますから、50年、60年と「大人の頭のよさ」が求められます。人生でずっと求められつづける本当の頭のよさとは、社会にどう適応できるか、という力なんです。

だからといって、「勉強なんかしなくてもいい」ということではありません。

勉強は、頭の基礎トレーニングなんです。

勉強ができる環境にあるときは、勉強しておいたほうがいいんです。

勉強を甘く見ると、その後の人生が大変になります。これは大人として口を酸っぱくして言っておきたいことです。